

平成28年度第8回社会教育委員の会議

平成29年2月17日(金)

午前9時30分開会

開催日時	平成29年2月17日	開会 9時30分 閉会 11時20分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	議 長 原嶋 和男 委 員 古家 義伸 委 員 石田 静子 委 員 城 瑞枝	委 員 小山田佳代 委 員 佐野 郁蔵 委 員 原田 隆司	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 石原 弘一 図書館長 菊池 幸子 公民館長 前島 賢		
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主事 小佐野七香		
傍聴者人数	0名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 会議録の承認について</li> <li>(2) 生涯学習支援センター機能について</li> <li>(3) 第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について</li> <li>(4) その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>①第48回関東甲信越静社会教育大会静岡大会における分科会</li> <li>②放課後子どもプラン運営委員会委員の推薦について</li> <li>③その他</li> </ul> </li> </ul>
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成28年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について</li> <li>(2) その他</li> </ul>

原嶋議長

おはようございます。よろしく申し上げます。

今日、欠席ということがあらかじめ知らされている方以外は出席されていますので、進めさせていただきます。よろしく申し上げます。

まず、配付資料、事務局のほうで確認をお願いできますか。

小堀生涯学習係長

配付資料の確認をさせていただきます。まず次第と、次に会議録ですけれども、平成28年度三者合同会議の会議録になっております。生涯学習情報コーナー関係資料ということで、A3の資料が1枚、小委員会の委員の方を除いて、すみだ生涯学習ネットワークのお知らせが1枚と、他計画評価関係資料ということで、A4が3枚あります。社教情報の76号、社教連会報の80号、図書館だより38号、月刊こうみんかん466号と、先ほど第3回子育てメッセこがねいのチラシを配付させていただきました。以上です。

原嶋議長

ありがとうございます。不足の方、いらっしゃいましたら事務局の方にご連絡ください。

その次は、議題のほうに早速に入ります。会議録の承認についてということですが、三者の研修会の会議録でありますけれども、ご承認いただけますか。

(「はい」の声あり)

原嶋議長

よろしいですか。ありがとうございます。

順序、少し逆になりました。すみません、部長さんお願いします。

西田生涯学習部長 おはようございます。

例の小金井市議会議員選挙が3月に行われるということで、前倒しでただいま29年第1回定例会が開催されております。そうした中で、小金井市の教育委員会で、生涯学習関連で幾つかのレベルアップ事業ですとか、あるいは新規事業というのをやっているところでございます。

まず一つ、皆様にお知らせしなければいけないなと思っているのが、平成26年度から28年度まで、3年間にわたりまして、チャレンジデーというのを開催してございました。このチャレンジデーでございますけれども、スポーツ、運動に親しむ市民の方を増やすきっかけづくりとなればということで行ってきたものでございます。3年目の平成28年度に初めて

勝利をすることができたということがございます。

それから、今年度から来年度早々になると思うんですけども、これにかけまして、小金井市のスポーツ推進計画というものが策定されます。ここで初めて小金井市としてはスポーツに親しむことが大切だということを明記するような形で、スポーツの計画をつくっていく形になりました。

これは、スポーツに関して、チャレンジデー等も1つの起爆剤として行ってきたところでございますが、今後はラグビーワールドカップ、あるいは2020東京オリンピック・パラリンピックを契機といたしまして、より一層、スポーツ推進計画に基づいたスポーツに親しむ人口を増やしていくという形でレベルアップさせていくということになりました。したがって、皆様のご協力をいただきながらやってきたところではございますが、28年度をもってチャレンジデーというものは終了という形になりました。こちらが、ひとつ小金井市として大きな決定だったかなというふうに思っております。

そのほか、生涯学習部関連で新規、あるいはレベルアップ等を行っているものとしましては、図書館が、今年度、大きなことをやりますけれども、空調設備の改修工事を全フロアにおいて行う、こういった予算要求をしてございます。また、生涯学習課といたしましては、これも新たなスポーツのきっかけづくりの一環なんですけれども、アシスタントティーチャー事業、ストレッチ体操普及啓発委託料ということで、予算化をしているというところでございます。

そのほか、公民館としましては、貫井南分館の外構工事を行う、こういったようなことが新規事業、あるいはレベルアップ事業というような形で行われていくという形になります。

どうか、来年度の生涯学習部関係、社会教育関係の予算にも、これから議決になりますが、ご注目いただきたいと思います。

長くなりましたが、以上でございます。

原嶋議長                    どうもありがとうございます。

ただいまのことでご質問ありますか。

なければ、課長、お願いできますか。

石原生涯学習課長    特にありません。

原嶋議長                    よろしいですか。

すみません、では、会議録が承認されましたので（２）に行きます。生涯学習センター機能についてということですが、資料があるので、まず、ここのご説明をしていただいてもよろしいですか。

小堀生涯学習係長 A3の資料になるんですけれども、こちらは26市に特に調査をかけたものではなく、ホームページ等から情報、26市の状況を確認したいということでとった内容ですので、書かれていないところにも機能等がたくさんあるかと思うんですけれども、今、確認がとれたものを一覧表にさせていただいております。

生涯学習センターをメインに書いたつもりではないんですけれども、生涯学習センターの情報コーナーがどういう形になっているとか、あとはコーナーではなくても、ホームページから人材バンクとか、そういったところに飛べるという機能を備えているところを探して、一覧表にしてみました。

ですので、こちらは調査をかけたものではなくて、独自調べということでご了承ください。

以上です。

原嶋議長 ご苦労さまです。

西田生涯学習部長 補足で、1つ、表を見ていただく際にご留意いただきたいことがございます。それは、生涯学習センター等と書いてあるところで、例えば町田市ですとか、立川市のところにありというふうになってはいますが、こちら、例えば町田市は生涯学習センター（公民館）という形になってはいて、立川市の地域学習館というのも、もともとは公民館だったところがございます。

したがって、生涯学習センターというのを新たに建てたという感覚でないところも含まれている。つまり、公民館のかわりにできているというような形での設置を行っている市もあるということをご留意いただきたいと思います。

以上です。

原嶋議長 これらの資料に基づきながら、今日は協議事項のテーマにおける皆様の知見というのかな、それを交換するというのがひとつメインになるかもしれません。

小委員会がありまして、そのときの、特に目的的に最終のお話ししたわけではないですけども、この学習機能センターの実態とか、あるいはあるべき論とか、あるいは小金井市の身の丈に合ったようなものがどこかにあるのかなみたいな、そういった相互の情報提供をしたことがありますけれども、それはそのままこの会議でもお話しされてもよいというふうに思っております。

小山田委員さん、どうですか、いろいろなところをめぐって、あり方みたいな。

小山田委員

生涯学習センターという箱というか、建物がなくても、そういった窓口でそこに情報が集約されていて、そこに市民の方がいらっしゃるといろいろ相談に乗ってもらったり、情報が入手できるというような機能になるところが幾つかある部分で、来年度ですけども、見学ですか、のときに、一つはそういった生涯学習機能のあるところを視察に行くということで、いろいろ見ていくというのがいいのかなというふうなお話が、この間の小委員会で出たかと思えます。

この中と、あとは墨田の生涯ネットワークの資料も用意していただいているかと思うんですが、ちょっとそちらとは、NPOの、私の所属しているところの関係があつてそちらにも参加しているんですが、墨田区のほうは、大きい生涯学習センターがもちろんあるんですが、それ以外にいろいろそちらに登録している中から、行政が主導で10団体ぐらいをピックアップして、年に2回ぐらい会議を持って緩やかにつながるといようなことをやっております。

年に1回、ほんとうに簡単なそれぞれのPRをするようなものを出して、これが公民館とかそういうところで配られているといようなことで、非常に緩やかですが、緩やかにつながるといようなこともまた一方ではあるんで、それですと、また窓口とか関係ない部分でも、そういったやり方というか、方法のつながりといようなものもあるのかなといことで、資料としてお出しいたしました。

この間の委員会では、狭山市でしたっけ、わりと窓口でやっていらっしゃるといようなこととか、こちらのほうは入っておりませんが、ちょっと私のほうで知っているところでは、中野区のスペースゼロといようなところも、区民の方たちが、もともとそういった生涯学習系の会に参加された方たちが、その後、グループをつくられて、任意団体としてその窓口を請け負っているといような事例があるといようなことも、小委員会のほ

うではお話をいたしました。

なので、小金井に合った形で、何かそういった生涯学習センター機能というのが考えられないかなというところを、また皆さんといろいろ学んでいたり、検討できたらというところかと思います。

以上です。

原嶋議長

ありがとうございました。

今話を受けて、あるいはそのほかのことでもよろしいですけども、ご意見、石田さん、ありますか。

石田委員

私も小委員会に初めて出て、生涯学習というのはいろいろ、学習って、中野と狛江と千代田区をとって見たんですが、やはりインターネットから入れるような形を各所がとっていることが多いので、小金井市もやはりインターネットから入れるような、いろいろなところがいろいろな窓口ではなくて、どこか1カ所が大きくあってそこからいろいろな部門に入れるというようなことが理想ではないかという話をこの場でしたんです。そんな形が小金井市でもつくればいいのかという話をしたと思いました。

原嶋議長

例えば千代田区生涯学習センターと検索に打ち込めば、パッと出てきちゃうわけですか。

石田委員

生涯学習でやって千代田区とか中野区でやると、結構出てくるんでいうことです。

原嶋議長

それぞれのが出てくるということですか。

石田委員

そうすると、大体、こういうふうに建物の発信があって、あと、自分でどこかに入れるような形になっていて、千代田区の場合には細かいのがいっぱい出ていて、自分の希望のところにポンと飛ぶようにはなっているから、ほんとうに大きな窓口があるというだけという感じです。

原嶋議長

小金井のをちょっと原田委員さん、調べていただいたというのもありますけれども、どうぞお願いいたします。

原田委員

この間、小委員会するときにも申し上げたんですが、そもそも学習支援セ

ンターってどういうことだったのかなと改めて生涯学習推進計画を読み直しますと、23ページに重点プロジェクトの2として、これまでの提言が改めて書いてあります。それから、48ページに施策の展開ということで、生涯学習支援センターの機能はこういうものです、こういうふうに整備していきたいと書いてあるということで、改めて頭の中を整理してみたんですが、これは自分で利用する立場になってどういう機能があったらいいかなと思ったんです。やはり何かをやりたいなというときに情報が提供される。今、石田さんから御紹介があったように、いろいろなところでやっているインターネットのサービスであるとか、ある場所に行けばそこでいろいろな情報がもらえる、そういうネット上、あるいは1カ所で情報がもらえるというような機能があったらいいなと、ひとつ考えます。

それから、情報だけじゃなくて、それは何かをやりたいというときにすぐ情報が出るというのは大事ですが、もう一つは、何をしたいかわからないけれども、何かしたいなという人が相談に行ったら相談に乗ってくれる。どういうことをやりたいか聞いてくれて、それだったらこういうことがありますよというものも必要かなと。そうすると、やっぱりそれも場所と相談に乗っていただける人が要るのかなという気がするんです。

そういうものをゼロからつくろうと思うと大変で、場所も要るといふことなんで、現状で何か展開できるものはないのかなと考えたんですが、実はいろいろな部課で重なっていることがあるんじゃないか。1つは、学習計画にもありますけれども、小金井市市民協働支援センター準備室というのが計画に載ってまして、これ、既に準備室等のホームページがあって、そこには、先ほど御紹介のあったインターネットでどういう活動をやっているかというのがすぐいけて、具体的にわかるという、準備段階のページですけれどもやっていると。

それから、紙の媒体でいっても、生涯学習部の団体の一覧の冊子があると思えばコミュニティ文化課がまとめている冊子もある。それもいろいろな団体はほぼ重なっているんです。そういう意味では、生涯学習って網をかけると、いろいろな分野をカバーしているほうが、利用する側からすればいろいろな情報が得られていいなということで、今あるそういうものを、例えば生涯学習部が音頭をとって一つに統合して、市民が利用しやすいようにするというのも1つの方法かなと。

場所と人の面で言うと、先ほど部長から町田や立川は公民館が、ここに名前を変えたんでしたっけ。

西田生涯学習部長　そうですね。位置づけと役割、そういったものを見直しているはずで  
す。

原田委員　　ということで、そのやり方を参考にすれば、小金井市でも公民館が幾つ  
かありますけれども、例えば一番新しい貫井北センターにそういう生涯学  
習相談機能を持たせて、あそこのNPOのメンバーを活用して、相談業務  
や情報供給業務ですか、そういうものをやるということであれば、新たに  
どこか場所を探さなくてもできるのかなというふうに思いました。

大体、そんな感じです。

原嶋議長　　ありがとうございます。

小山田委員　　今の原田委員の補足で、さっきお配りした子育てメッセこがねいなん  
ですが、今度、市民活動まつりという、それこそコミュニティーというか社  
会福祉のほう为主导でやっているお祭りで、ほかにもいっぱい団体が出る  
んですが、その中に子育て支援ネットワーク協議会という協議会が、子育  
て系で小金井で、今、あるんですが、後ろに参加団体を、今回、全部、挙  
げたんです。30から40近くありまして、実はこの中でも生涯学習課の  
社会教育団体に登録しているところもあって、やはりかぶっていたりする  
んですね。

この日は、それこそ市民活動の方々も、ほかには子育て系じゃない団体  
も参加されるんですけれども、年に1回はそういった市民活動でのほうの  
お祭りみたいなのもやっちはいらっしゃるといのか死ぬほどやっているの  
で、そこに行くと、多分、いろいろな団体の情報も入って、ほんとうに重  
なって登録している人たちもいらっしゃると思うんですが、なので、子育  
て系も、今、わりとネットワークを組んで市内では動いているという事例  
というか、例として御参考にしていただければというところですよ。

原嶋議長　　参考までにありがとうございます。

原田委員　　このお祭りは、去年、おとしやっっていなくて3年ぶりなんだそうです。  
今のお話のように、かなり生涯学習系のグループが一堂に会するというこ  
とで、これはそこに行けば、これ、ブースが出るんですか。

小山田委員　　そうですね、いろいろ。

原田委員           そうすると、合唱をやりたいなとか、何か福祉関係をやりたいなとかという興味がある人が行けば、そこで相談に乗ってくれるということですか。

小山田委員        そうですね、相談窓口という大きいところはないんですが、個々に興味のあるブースとかに行ってとか、資料とかを集めてまた御連絡したりみたいな。

原田委員           こういうのが定期的にかかれるだけでいいですね。

原嶋議長           皆さんのお話を伺うとほとんどもったもな話なんですけれども、どうなんでしょうか。今、小金井の現状、聞いていいんですか。どうぞ。

古家委員           先に市役所のほうから聞く前に、少し整理して私もお聞きしたいなと思っているんですけれども、この第三次計画の中の48ページに生涯学習支援センターの整備というのがあるんですけれども、これは第二次計画のときからずっとあって、あったらいいなという形で載つけられていることなんだろうと思うんです。実際には、今は小金井市には生涯学習支援センターというのは物理的にはないんですけれども、幾つかの方向性というか、具体性を考えなきゃいけないだろうなと思うんです。

1つは、どこかに箱物として建物があるというのが一番理想的な形なんですけれども、小金井市の場合には、市役所の問題まで含めて、予算的なことまで含めて、それはほとんど不可能なんだろうなということなんで、理想論を議論しても仕方がないなと思うんです。

ちなみに、八王子の場合には、生涯学習センターとしてクリエイトホールの中にあるんですけれども、あれは、八王子は非常に財政が厳しい中で、八王子駅の南口の再開発の一環として、駅から直通で行けるとところに20何階建てかのマンションができたその下のほうに、大型の商業施設とともにクリエイトホールが入り、生涯学習支援センターも入ったという、やはりそういうかなり、10年以上前からの長期的なビジョンの中で折り込んでいったものなんだと思うんです。

そういうものが小金井市にできるかといったら、唯一、考えられるのは、今の小金井市の南口の再開発のあのエリアですね。今日、来るときにちらっと見てきたら、26階建てのマンションと一緒にあった商業施設も入るといふふうにあるんですけれども、その中に例えば生涯学習支援センター

的なもの、もしくは生涯学習にかかわるようなものを今からでも入れるようなことが果たして物理的に可能なのか、予算的に可能なのかということはお聞きしてみたいなど。今は、多分、無理なんだろうなと思うんです。

もう一つは、より具体的な形として、先ほど原田委員がおっしゃったような、今ある小金井市の中の既存の施設の中にどこかにつくるとというのが一番具体的なことかなと。そういう意味では、貫井北が一番現実的かなと思うんです。

3番目に先ほどのインターネットのことがあったんですけども、これは今はおそらく生涯学習課のどなたかが小金井市のホームページの中にあるいろいろやられているんだと思うんですけども、これはインターネット上の問題は、生涯学習関連としてホームページを作成し直して、この第三次計画に乗っているようなものを洗い出しながらそこにリンクを指せるような形で、ホームページをちょっと作りかえるような作業をやればできることだと思うので、インターネット上の整備はすぐにも時間をかければできることかなと思うんですけども、その先に言いました物理的な内容としての、どこかにそういうつくるようなめどがあるのかどうかとか、予算的な部分についてはお聞きしたいなど。

原嶋議長

小金井の身の丈というんで、人、もの、金で言うと、ものについてはかなりハードルが高いというか、例えばちょっと学校は不便なところがあります。不便というか、まあまあなところがあります。市街地の真ん中にはない。これはしょうがないですね。小金井は人気があるから学校の再利用はもういっぱいいっぱいですね。

古家委員

多分、小金井は、今、人口が急激に増えていて、例えば東小金井の北口は大型マンションができますから、小金井三小は近いうちに教室が足りなくなることが、もう十分、考えられます。それから、小金井特別支援学校の隣に、今、マンションを建設していますから、二小もおそらく急激に増えると思う。それから、先ほど言いましたその南口に26階建てのマンションができるということは、僕はあまり詳しくわからないですけども、一小か四小が急激に増えると思うんですね。

ちなみに私が前任だった花小金井は、学区内に800世帯の大型マンションができるということで、1校だけでは抱えきれないということで、あえて2校に分けて、私の前任校も12学級から19学級にするように、中庭に、今、建物をつくり始めている状況なんです。

それから考えると、小金井市は今の既存の学校の建物はもうほぼ教室は  
いっぱいいっぱいなので、学校の中にそういう施設はほぼ難しいのではな  
いかな。唯一、東中あたりはどうかちょっとわからないですけども。

原嶋議長

ありがとうございました。

すみません、話を、部長、もので言うと、今のお答えはないかな。

西田生涯学習部長 まず、御質問の1点目、新しくそういうものを建てるというのが物理  
的にどうかという話でございますが、これは実は提言をつくることから話  
題になっていまして、私のほうからも申し上げている中で、今の市の財政  
状況からすると、新たにそういう建物を建てて生涯学習センターという名  
前をつけるというのは、不可能に近いであろうということは申し上げまし  
た。

そういうことで、そちらの提言書も、よく見ていただけると、生涯学習  
支援センター機能と書いてあるんです。建物を建てるという前提は、実は  
提言のときからなかったんです。したがって、結論的に言いますと、  
これはあくまでも機能をつくろうという話をしているわけで、建物が建つ  
とそれは理想かもしれませんが、建物を建てる、建てないにかかわ  
らず、その機能をどうやったら充足できるかというのを、今後、考えてい  
きましょうというような提言だったというふうに理解しています。

それから、2番目に、再開発エリアに今から入れられないかというお話  
でございますが、実は小金井市はあそこには保留床といひまして権利を持  
っていないんです。したがって、もし何かをつくるとなると、小金井  
市が全部お金を出して、あそこの建物の中の一部を買い取らなきゃいけ  
ないという形になります。イコール、基本的に建物を建てるのと同じなん  
です。ということで、1番目の答えと同じになってしまいます。

3番目なんですけれども、3番目といいますか、公民館等に敷設して、  
そこを有効利用したらどうかというお話がありましたけれども、それは一  
つ、ぜひ議論をしていただきたいというようなことで、ご理解いただ  
ければと思います。

最後、インターネットの話がありましたけれども、こちらのほうも、や  
はりインターネット、今のところは生涯学習の情報提供という形をつ  
くっているものではありませんので、そうすると、一つシステムをつ  
くっていかなくちゃいけないということになると、やはり我々の力量  
ですとなかなか難しいかなと思います。ですので、この辺はやはり  
予算がかかってしまう

かなと思っていますので、一朝一夕にでき上がるという話にはなりにくい。

ただし、どういったものが、先ほど原田委員がおっしゃっていましたがけれども、例えば人をどこかに、兼任でも何でもいいんだらうと思うんですけれども、イメージ的には相談に乗ってくださる方がいらっしゃってというような、そういったものと併存をしていくというようなことも考えていく必要があるのかなというふうには、私は、今、個人的には思いますけれども、ぜひご議論いただければと思うんです。

ある程度、やはりいいことをおっしゃっていただいたんですけれども、理想を語るのも非常に重要なことなんですけれども、やはり中長期的にこういうところまでいけばいいなというところと、今、差し当たりこの辺のところをやればいいかなというようなことを分けて議論いただければ、非常に我々としてもいろいろやりやすいところもありまして、将来的にはこういうこともいい、でも、今は一足飛びにそこまで行くのは大変だろうから、この辺のところから整備していけばいいんじゃないかというような意味合いで、ぜひ議論いただければなというふうには個人的には思っています。

以上です。

原嶋議長

ありがとうございます。

どうぞ。

古家委員

2点、1点はすごい具体的な話で、福祉会館の兼任については、もう28年度から使用しなくなりましたけれども、その後、どういうふうになっているかというのをお聞きしたいのと、今の2番目の、最後に部長がおっしゃったことについては、そういう機能を持たせるなり、人をどうするかみたいなことのイメージを具体化するためにも、先ほど石田委員がおっしゃったように、インターネットから入ったらこういうふうにつながるみたいな、今すぐホームページをつくりかえるということではないんですけれども、例えば小金井市のホームページの中に生涯学習支援センター機能という項目をつくって、そこからどういうふうリンクさせるかみたいなことを、インターネットの過程として、どういうふうにつくるかということを具体的に、例えばこういうところで案をつくっていくと、何がしかの具体的なイメージはできていくかなという、その作業はすぐにでも始められるかなという気はします。

西田生涯学習部長 1点目なんですけれども、福祉会館につきましては、平成33年度に竣工予定ということで考えています。昔は、今、なくなった福祉会館の中に公民館という施設が入ってございましたけれども、具体的な中身につきましては、幅広い世代に使っていただきたいという市長の意向はありますけれども、まだ具体的に何に使うという形にはまだ至っていない、これから考えていく。1つは庁内で考える、2つ目には市民を交えて考えるという形で、これから具体化されていくんだろうなと思っております。

2点目のインターネットなんですけれども、前回、前々回ぐらいからかな、先進の視察の話が出ていますけれども、ぜひ実際にどのぐらいの作業をすればいいのかとか、実際にどういう苦勞をして、例えばインターネットのものをつくり上げたのかとかというのは、ぜひ先達の例を見てみたいなというふうに思います。

ですので、イメージだけではなくて、ぜひそういったところを幾つかピックアップしていただいて視察に行って、我々も一緒に行ければいいなと思うんですけれども、こういうふうに苦勞があるんだとか、思いつかなかったけれどもこんなところに予算がかかってしまうんだとか、そういったところを見てどんどんイメージを絞っていければいいかなというふうには思うんですけれども、いかがでしょうか。

古家委員 すみません。すごく納得されてきました。その福祉会館跡地が33年とおっしゃいましたけれども、たしか今までは5階建てだったんですけれども、階数が上がる可能性はあるんですか。

西田生涯学習部長 具体的な話は、全部、これからなんです。3,500平米ぐらいで、新庁舎の建設予定地、昔の蛇の目ミシン工場があったところですが、そこが最有力な候補地だというふうに考えられるというところにはいっています。ですから、何階建てを建てようとか、中に何を入れるとか、全部、これからなんです。

原嶋議長 候補地段階ですね。

古家委員 福祉会館があった場所にじゃなくて、向こうにということですね。

西田生涯学習部長 はい。あそこは、実は土地を借りているんです。自前の土地ではないんです。

古家委員 予算さえあれば、場所的には高さは変えられるということですね。

西田生涯学習部長 予算だけではないです。日影規制ですとか建蔽容積率とか、いろいろな関係があります。そういったことを考慮してやりますので、階数というのは、それから、新庁舎予定地ということになりますので、新庁舎も建てます。それとの兼ね合いもありますので、一概にここで。

原嶋議長 少しずつまとめていきますが、今回やるのは、ここに書かれている機能充実という大きな枠組みの中で、中長期というよりは、今回についてはどうでしょうか、短期的なところで、具体的に社会教育委員の中で、皆さんの中でアイデア。

今、インターネットの統一化みたいなのが出てきましたね。ただ、そういうものに私もちょっと疎いので、プロバイダとか、出てくる問題もありますし、研修のときにも、そういう際にお金がどのぐらいかかるのか、それもわかってくるのかなと思いますけれども、そういうのにたけた方がいらっしゃれば。

原田委員 たけていないんですが、質問したいんですけれども、先ほどもちょっと触れましたけれども、小金井市民活動団体リスト、それから小金井市市民協働支援センター準備室のブログというのが出てきて、何かしたい人はこれを見ると大変参考になるんです。どちらも市民部コミュニティ文化課というのがやっているんですけれども、例えば生涯学習部のページからリンクでここにすぐ飛ぶというのは、多分、お金はただでできると思うんですけれども、こちらを活用できるようにするというようなことは、縦割りの難いのでしょうか。

西田生涯学習部長 ひとつここで、ぜひ御議論をいただければなと思うんですけれども、先ほど小山田委員もおっしゃったんですけれども、原田委員がおっしゃったのかな、今、実はかぶっているところがいっぱいあるんです。ここで、やはり生涯学習って何とやらないと、多分、際限なくなっちゃうんです。大きな捉え方で言うと、生涯学習って揺りかごから墓場までになっちゃうんです。そこから学校教育の部分を除いたら、全部、生涯学習だという言い方すらできてしまいます。

それから、社会教育という言い方を昔はよくしていて、ここの委員会も

社会教育委員なんですけれども、生涯学習と社会教育は微妙に意味合いが違うところがありまして、その辺のところもはっきりさせて、共通認識の中で動かないと、多分、非常に守備範囲が広いというところはあるんですけども、守備範囲が広い中で、生涯学習の位置づけをはっきり皆さんの中で共通認識で持っていないと、多分、際限がなくなっていっちゃうかなという気もちょっとあります。

ですから、市民活動の関係と生涯学習というのは、今は別々の部署が管轄することになっていきますので、その辺のところでもうまくすみ分け、すみ分けという言い方も変ですが、かぶるところがありますが、生涯学習というのはそもそも何なんだという中でリンクをさせていかないと、全部、生涯学習でやればいいのかという極論になっていってしまいますので、その辺は要注意だと思っています。

古家委員

インターネット関係については、やろうと思えばそんなに予算がかかることではないと思うんです。例えば学校のホームページなんかをつくる時も、私の学校では去年の夏に、全部、作りかえたんです。それは今までのホームページがちょっとシンプルすぎて、もうちょっといいものにしたいなと思っていたんで、私と副校長と担当とで、こういうふうにやりたいねということをいろいろペーパー上でつくって行って、そのための資料、写真とかデータをつくったものをいっぱいやって、そして、学校で言うならば、ICTの支援員という人が定期的に来ていきますので、その人と相談しながら「これでやってもらえる？」「これはもっとこうしたらいいですね」みたいなことをやって、夏の間は2週間ぐらいかけて、全部、作りかえてもらったんです。

それはもうほんとうに自前で案をつくって、もともと小金井で公的な予算をお願いしている人に頼めば、インターネット上で整えることはほとんど予算がかからない。ただ、誰がそれをやるかということだけの問題だと思うんです。

それから、生涯学習とか社会教育みたいな言葉の定義みたいなものは絶対大事だと思うので、とりあえずは、今、生涯学習部で抱えている内容に、ある程度、限定するとか、この推進計画に載っているところを、この推進計画なんかを参考にしながら枝葉をつくっていくというふうにして、いわゆる公的じゃない私的な部分のサークル的なものとか活動はとりあえず置いておいてという感じにしたほうがいいかなという気はします。

そういうペーパー的な情報をやるのは別にインターネットの知識がなく

てもできることなので、紙の上で生涯学習支援センター機能としてどういうものがあるか、その中身を割り振るみたいなことをやっていけば、これは時間をかけて検討していけばイメージをつくれると思うんですけれども。

西田生涯学習部長 非常に御参考になるお話だと思うんですが、一つちょっと学校と違うところがありまして、小金井市のホームページというのは情報システム課という部門が全てを統括して、1つのプラットフォームの中で情報システム課が全て最終的に承認を握っています。したがって、我々の中でつくっていくというのはなかなか難しいというか無理だというのが前提としてありますので、今のホームページのプラットフォームというのは、生涯学習のものに特化してつくれるような形は想定していないというところがあります。

したがって、学校のホームページというのは。

古家委員 単独ですからね。

西田生涯学習部長 単独で作り上げるようになられているんですけれども、小金井市のホームページというのは、小金井市という枠組みの中で全て動いていますので、生涯学習だけ特化して、そこから独立をするという形に、今の形でいくと、1つつくらはなきゃいけない形になるので、それは予算がやはり伴ってしまう形になるので、ちょっと別の方法を模索していかなきゃいけない。

だから、リンクで飛ばすみたいな方策はあると思うんですけれども、それもいわゆるリンクをバーッと張っていくような形になってしまうと、100幾つリンクがありますみたいな、そんな、誰が使うんですかみたいな形になってしまいますので、こういったところも、私が思っているのは、ほんとうに先進市の例を見せていただいて、こんなアイデアがあるんだ、今の枠組みの中でどの辺まで動けるんだろうというヒントが欲しいなど。

確かにイメージ的なものはいろいろあるんですが、それを100%やろうとすると先ほどの制約がありますので、どの辺まで動けるのかというのは、幾つか例を見ていきたいなどは思います。

古家委員 すみません、一方的に。小金井市の情報システム課のことはよく知っておりますし、小金井市は情報についてはかなり制限も厳しいというのはわかっていますので、当然ながら、小金井市のホームページの中にどこかの

枠をつくるか、リンクを飛ばすか、どちらかだと思えるんですけども、それは私たちだけで勝手にできることでは、当然ながらできないことですので、ある程度、こういうのをやりたいみたいなものがイメージできた段階で、できれば情報システム課の方に、1回、一緒に相談に乗ってもらおうとか、どういう部分だったらできるかみたいなことは聞いてみたほうがいいかなという気はしますけれども。

石田委員 今、同じことを言おうと思って、私たちが模索しているよりは、情報システム課がどういう枠組みでやっていて、その中に小金井市としてどういう部分で入れる部分があるのか、全くないのかということ私たちが勉強してから視察に行けば、やはり見る目が多少は違うかなという気がしましたので、今のご意見に賛成です。

石原生涯学習部長 ごめんなさい、ひとつ申しわけないんですけども、きついです。私は、実は、前々前職が情報システム部だったんですよ。

石田委員 そうですか。

石原生涯学習部長 実はホームページ立ち上げにかかわっていたんです。今のホームページの形態じゃないんですけども、前のやつなんですけれども、正直言って、私が理想としているホームページを今の枠組みでつくるのは不可能だと思っています。

ですから、今の枠組みの中で何ができるかと模索するよりも、こういう理想が欲しいというのを先につくってしまって、その中で何を設けるかを見たほうが早いと思います。制限がいっぱいあって、多分、わけがわからなくなっちゃいます。その制限を知ろうと思うとかなりの知識も必要ですし、何ができると聞く前に何がしたいのと間違いなく聞き返されます。何ができるのかの前に何がしたいのか持ってこいと言われますので、まずはそれをつくってみて、その中で峻別していくというほうが、実は合理的かなと思います。

ごめんなさい、せっかくのご意見だったんですけども。

石田委員 そうしたら、目的を先につくれということは、小金井市の生涯学習センター機能みたいなものを言葉として取り上げて、そこにリンクか、アップすれば、こういう団体でこんな催しがあるよというふうに飛べるというこ

とは、その中に可能性がある。

石原生涯学習課長 もうちょっと具体的に、どういうページをつくりたいのかという、飛ばばというのはどうやって飛ばすんですかって聞かれるんです。その仕組みなんかは、おそらく我々が考えていてもあれなんで、多分、何度も申し上げていますがけれども、先進市を幾つか見て、こういう形態がおもしろいよねというのを幾つか見て行って、イメージを、多分、つくっていったほうがいいのかという気がします。

原嶋議長 ここでいろいろ頭の中で想像しているよりは。

石原生涯学習部長 多分、膨らんで言ってしまって、パーッとなくなっちゃうんだと思うんです。だから、例えば検索機能を持たせるのは、どういう検索機能が実際に使いやすいのかとか、そういう具体的なところを持っていると、多分、今回、ここまでできないけれども、これだったらできるよねというようなイメージが膨らんでいくのかなという気がしています。

ですから、やはり先に、これは事務局側でも調べる必要があると思いますけれども、実は東京都のホームページに生涯学習ポータルというのがあるんです。教育庁の生涯学習課というところがあるんですけれども、その中に生涯学習、これ、各区市町村全部に張ってあります。そこにこういう団体があるのというポータルサイトを持っていますので、そういうのも参考になるかなと思っています。あと、幾つか出てはいますが、各区のほうが多いかな、生涯学習のポータルサイトというのを持っているところがあります。そういうのを見て、ぜひイメージをつくっていったほうが議論しやすい。

ほんとうに今、しょっぱなのところは、皆さん、もうやり始めているのかなと。原田さんなんかも打ち出したりしていらっしゃいますし、ほんとうに小委員会の皆さんが、今、調べていらっしゃるのはその方向性だと思うんですね。いろいろなところを調べておいて、こんなのがいいよねというのは、多分、イメージをつくっていく上で一番早い方法なのかなと思います。あと、実際、ほんとうに見に行き、聞いてということなのかなと思います。

古家委員 実際に見に行ってみるというのは、ホームページのリンクの張りぐあいとか、どこをどうしたらどういふふうに見られるみたいなものはパソコン

ンの画面上でも見られるんですけども、実際に視察に行くというのは、具体的にはどの辺を見に行くということですか。

石原生涯学習部長 ホームページだけを見に行くということでは、多分、ないと思うんですけども、例えば実際に狭山市なんかもやっていますけれども、NPOが生涯学習の相談に乗っていますとか、そういうのも合わせて見に行くといいかなと思うんですけども、ホームページをつくったときに、苦勞とか、こういうところを気をつけたほうがいいよとかというのが生の声で聞けるというのは大きいかな。ただ、注意しないと、つくったときの人はいませんということもあるんですけども。

原嶋議長 ちょっと質問というかお願いで。今のお話のような、これはいいぞというポータルサイトがあるというのを、我々自身も自分で見ることはできると思うんですが、全員で見られると議論しやすいのかなと思う。だから、幾つかいいのを事務局で選んでいただいて、例えばこの会議室でネットをつないで見るということはできるんですか。

石原生涯学習課長 それはできないですね。

原嶋議長 できないか。

石原生涯学習課長 だから、逆に小委員会とかで、下の7階に生涯学習課があるので、1台のパソコンを囲んで、こんななんだと見るのは可能だと思います。

原嶋議長 みんながバラバラのことで見て想像しているよりは、1つのものを一緒に見たほうがいいかなと思ひまして。

古家委員 ここでは見られないんですか。この部屋にパソコンを持ってきても。

石原生涯学習課長 線がないんですね。

古家委員 ないんですか。例えばパソコンの画面上に出たのは小さいじゃないですか。だから、例えばパソコンの画面上に出たものをあの大型テレビの画面に出して、こうやってこうすればこれが出るみたいなことは、ぜひ大人数なんでそういうのができたらいいなという気はするんですけど。

石原生涯学習課長 私もできたらいいなと思うんですけども。  
役所の設備でやるのは、想定していないのでちょっと不可能です。

小山田委員 前原暫定とか、公民館とか。

石原生涯学習課長 そうですね、801で、1回、やらないで、来年度、どこか別の会場をとって。例えば貫井北なんかITの部屋とかありますので、そういうところで1回。みんなで持ち合っても、おもしろいというのを見て、なるほどねみたいな、そういうのもおもしろいかも说不定ですね。

原田委員 そうですね、それは、ぜひ議長、やりましょう。

原嶋議長 インターネットの回線があるところで大型テレビがあるところを。

石原生涯学習課長 役所以外で。

石原生涯学習課長 公民館とか。

原田委員 大型テレビよりプロジェクターです。

原嶋議長 皆さんも会議場所はあまり固定的に考えていらっしやらないと思いますから、それは融通していいのかなと思いますけれども。

佐野委員 今、技術論的な話がずっと来ていると思うんですけども、さっき部長もおっしゃったように、要するに生涯学習という内容ですね、要するにどういうことを生涯学習で見ていかなきゃいけないのかということをもう少し詰めていかないと、要するにインターネットでどうする、こうするというのはその次の段階ではないかなと僕は思うんです。

以前、ちょっと資料をもらってやったことがあるんですけども、小金井市の場合、同じような内容の事業、いろいろなところでやっているんです。ですから、そういうものを分析をして、要するに集約をしていくと、3つある事業を集約して1つにすると予算も少し多くとれるんじゃないか。

ただ、縦割りでやっているんです。ですから、そういうところに、この社会教育委員の会議で少し話し合っ、業者のほうにこういう形でまとめ

ていったほうがよりいいものができるんじゃないか、それが市民のためになるんじゃないですかということも訴えていくのも大事なんじゃないかなというふうに思ったんですね。ほんとうに同じような内容をいろいろなところの部署で行っている。

ですから、本来、生涯学習で市民の皆さん方にこういうものを提供したい、そういうものをもう少し具体的に検討していくことが先なんじゃないかなというふうに私は思っているんですけども。

古家委員

私は同時並行のほうがいいと思う。この推進計画を見ていって、ペーパーベースとして小金井市で生涯学習支援センター機能的な部分でいったら、実際にはどんな項目が出てくるだろうなみたいなことを、一人一人、やはり紙の上で案をつくるべきだと思うんです。それは、多分、結構、バラバラになると思うんですけども、その自分が案をつくるようなベースがあった中で、いろいろな先進的な生涯学習のホームページなり何なりを幾つか見ると、その特色あるところによって分け方が違ったりすると、項目とか内容の参考もすごく出てくると思うので、自分がペーパーベースでつくったものと比較して検討していくということを同時並行にするべきだと私は思いますけれども。

石田委員

二次のときに、今、二次の生涯学習でやっている行事の全てを打ち出してみて重なっているところを見たことがあるんです。やはりそれは縦割りの中でやっていることで、行政そのものにメスを入れなければならないので、私たちが手を突っ込めることではないという判断を私はしたんです。

三次のときには、この中には、二次のときにはいろいろな団体がやっている行事が、全部、列記されていたんですが、やっぱり冊数を少なくすること、それから紛らわしさを省くためにこういう薄い冊子で三次が出てきたんですが、小金井市でやっている行事そのものは見られると思うんです。

だから、縦割りのところに手を入れるという部分は私たちがやることではなくて、既にやっている行事をそれぞれに、例えば1つのことをやったら、その生涯学習と文化課と何かであったら、そこから一人ずつ出てきて協議するというような形は、多分、将来的につくれるんじゃないかと思いますが、今までやっていた課に、これは生涯学習でとるからやめなさいというようなことはできないと思っております。

原田委員

関連で、佐野委員のおっしゃる御意見はわかるんですけども、社会教

育はこれだけよという定義はあまりしないほうがいいのかなという気は、利用する市民の立場で言うと、つまり学びたいと思っている人は、別にそれが社会教育だろうが何教育だろうが関係なくて、やりたいわけですから、情報はやはり幅広く提供するというので、これは社会教育、生涯教育じゃないから線を引きましょうとしないほうがいいのかなという気はちょっとする。議論することは必要だと思うんですけども、結果的にはすごく幅広いものになってもしょうがないというか、しょうがないじゃなくて、そのほうが市民のためになるのではないかなと私は思います。

原嶋議長 私も同じなんですけれども、生涯学習そのものの概念規定とか何かというのは、抽象的な文言では既にでき上がっているんじゃないかなと思うんです。

佐野委員 ちょっとよろしいですか。私、さっき、部長がおっしゃったように、要するに生涯学習というのはどういうものなんだということを検討する必要があるんじゃないですかという発言があったんです。それについて、要するに私はお話をしたことであって、何も狭めるとか、そういうことではないですね。こういうことは生涯学習で行うほうがいいんじゃないかという、そういうものを出し合う、また今、やはり行政は縦割りですから、そこに何もできないというのもやはり僕は違うと思う。やはりそれは、要するにできる、できないじゃなくて、こういうふうにしたほうがいいんじゃないでしょうかということ、私は社会教育委員の会では言えると思うんです。

それを言っていないと、逆に我々の職務を全うしているとは言えないんじゃないかな。そこはできないということで退いてしまってはどうかなと。こういうふうにしたほうがいいんじゃないでしょうかということ、やはり訴えていく必要が私はあると思いますね。そういうふうに思います。

西田生涯学習部長 すみません、ちょっと議論が広がってしまうような感じなんです。あくまでも、ホームページとか、それから生涯学習支援機能とかということを考えるに当たってというところに絞っていただかないと、先ほど申し上げたように、議論があちこちに飛んでいってしまうなという危惧を持っています。

というのは、原田委員がおっしゃったことも、佐野委員がおっしゃったことも正しいんだと思うんです。どちらかが違っているということではなくて、生涯学習はおそらくそれぐらい懐が深いんです。ですから、逆にホ

ホームページだとか生涯学習支援とかを考えると、やはり佐野委員がおっしゃったように、生涯学習って何だろうなという共通認識を持った上で、原田委員がおっしゃったように、実際にはそれにこだわらずにもうちょっと広い視野でやっていきたいと思いますというのは、これは非常に重要なあれだと思えるんですけども、まずは共通認識として、生涯学習とは何だとか、そういうようなところをある程度のもの、こんなもの、きちぎちに決めることはないと思えるんですけども、こういうイメージのものだなというのだけは持っていていただいたほうがいいかなという気がする中で、議論のやはり出発点になるのは、この生涯学習推進計画に書いてあるここに出ている事業なのかなと思えるんです。

生涯学習計画で取り上げているというのは、進捗管理を、これ、生涯学習課のほうで、事業には口を出すという立場にはないんですけども、生涯学習の観点からも、これ、継続とかと書いてありますね。ちゃんと進捗管理はしますよという意味合いでございますので、こういったところも実際には見るという形になります。したがって、生涯学習部の事業にかかわらず、学校から子育ての分野、福祉の分野、経済の分野も大幅に入っています。

ですから、こういう視点を持った中でやっていくというのは非常に最終的には重要なんですけども、そういった中で市民にどういうふうに提供していけばいいのかというときに、生涯学習の役割みたいなものが共通認識であったほうがいいのかなというのが私の言った意味でございます。

古家委員

生涯学習とはみたいなものは、いわゆる辞書みたいなもので調べれば幾らでも載っていると思えるんですけども、小金井市における生涯学習推進ということに限定してというか、考えていくべきだと思えるんです。

私は、さっき石田委員のほうからインターネットの話が出たんで、それをひとつ活用するという意味なんですけれども、先ほど部長がおっしゃったように、小金井市のホームページに結論としては載つけられないこともあり得ると思えるんです。だけど、そのインターネットのホームページをイメージしながら、こうしたらリンクが行くとか、この活動はここに入るだろうなみたいなことを、ペーパー上とか何かでつくることによって、私たちの頭の中を、小金井市における生涯学習の具体像をイメージするという意味でも無駄にならないというか、非常にいいんじゃないかなと思っています。

西田生涯学習部長 ありがとうございます。

何せこれをつくっていますので、基本的にはこれが出発点だと思っていただければと思います。だから、これをもとにいろいろと考えていただければなど。

原嶋議長

そうですね。あまり話が広がってしまうと收拾がつかない場合がある。

今言っている施策の展開、例えば23ページなんかもそうなんですけれども、やはりこの機能充実ということを置きながら、やはりここにはウェブサイトと書いてありますけれども、やはり少なくとも少しずつできることを社会教育委員が後押ししていくような感じ、行政さん、頑張っよというふうなことでいいのかなというふうには思っています。

西田生涯学習部長 皆様の意見というのは非常に重要でして、やはり行政で縦割りだっ

て佐野委員がおっしゃいましたけれども、どうしてもそういう、ひょっとしたらそういう考え方を打破しようと我々は考えているんですけれども、どうしても予算獲得から事業を行っている仕組みからすると、そっこのほうに誘導されていくようなところがどうしてもありまして、いい悪いは別としてそういう傾向がどうしてもあるということは、これ、否めないところでありますので、そういうところでぜひ意見をいただい

て。そういう意味で言えば、実際にできる、できないというのは、これは行政が最終的にやることですので、いろいろな感想ですとか、そういったものはぜひ寄せていただいて、こうしたほうがいいんじゃないかなと思うというようなことは出していただいて、それは行政の気づきにつながっていきますので、そこはそういう視点を持っていなかったということは十分あり得ますので。

ほんとうにそういう意味では、議論の焦点は外さないようにしつつも、そういう幅広い視野から見ていただけて、原嶋議長がおっしゃったように後押しをしていただくということであれば、ほんとうにこんなにありがたいことはないかなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

原嶋議長

城さん、いかがですか。

城委員

私も具体的にどうしたらいいというのは浮かばないので、やはりもうやっているところのを見させていただいて、こういうふうに行っているんだというのを参考にして考えていきたい。あまりよくわからないの

で、そういうふうにしたほうが私としては考えやすいかなと思います。

原嶋議長            まずは行動ありきですね。

城委員              はい。

原嶋議長            小堀さん、幾つか自治体に行っていらっしゃっての感想、大変でしたね、御苦労様です。何か我々に情報として教えていただければ助かります。

小堀生涯学習係長   小金井からは近くないんですけれども、それぞれが近かったのが、墨田区と荒川区と足立区の生涯学習センターに行きまして、それぞれほんとうに立派な建物があるんですけれども、荒川区だけは、先ほど先生からのお話があったのであれなんですけれども、学校をそのまま生涯学習センターに使っていて、その中の1教室を情報コーナーという形で、いろいろな区の関係であったりとか、生涯学習関連のものを備えてありました。

一番印象に残っていたのは、建物としてというよりも、墨田区の生涯学習センターのところに、建物もすごく立派なんですけれども、そこは職員の方もいらっしゃって、生涯学習のほうの相談コーナーに人もいらっしゃって、それは荒川区も同じだったんですけれども、団体登録をしているところの情報等も見られるようになっていて、そこに行けばやはり情報がもらえるというところで、センターを見に行ったというよりは、どちらかという生涯学習コーナーがどういう形で運営されているのかというのを見に行ったんですけれども、施設は立派でも、ただ置いてあるのを眺めるというところもありますし、そうやって相談員さんがいらっしゃるところもあるのでさまざまなど、やはり小金井市に合った形というのはいろいろ見てみないとわからないのかなと思いました。

以上です。

原嶋議長            ありがとうございます。御苦労さまです。

石原生涯学習課長   議長、私も1つ、見たものがあるので、今、小堀のほうは立派なところを見たみたいなんですけれども、私、新橋の駅から歩いてのところ生涯学習センターというのが地下鉄の地図のところに出ていたの、どんなところかなと思って行ってきました。

そうしたら、地域の集会施設のような、小金井の集会施設よりは幾分立

派なものだったんですけれども、1階がもとは何か別の機能で使っていたのかなというところが、警備員だけが1人いるようなコーナーで、2階のほうには事務室があるんですけれども、そこは生涯学習情報コーナーとか、書いてあったんですけれども、置いてあったものについては、区報が置いてあるのと、隣接区の区報についても置いてあるのと、団体の情報というものも、参加したいときにできるようなものが置いてあったんですけれども、見ましたら、大体、専らスポーツの団体が多かったというのはありません。

あとは、地域情報とか東京都からのチラシとかがある程度で、箱物とすれば、その部屋については完全に独立した生涯学習コーナーなんですけれども、人も特に置かずに、書物というか、資料だけ置いてあってやっているようなものがあります。そこはもう立派で、1階の公園から入ってくるところがもう生涯学習コーナーになっていて、そういうので。

ただ、隣接する部屋には喫茶コーナーなんかもあったりもするんで、喫茶コーナーが混んでいたりするときに、暇潰しでそういうところを見る方もいるかなというような形のものもありました。

以上です。

原嶋議長            ありがとうございました。。

西田生涯学習部長   私も調布を見てきました。たづくりなんですけれども、下のほうが図書館になっています。会議室とかがあって非常に立派な建物で、アフラックの本社の隣か何かにあるんです。調布の。どっちが市役所かわからないぐらいの建物で、非常にすごいんですけれども。

その何階かに生涯学習情報コーナーというのがあって、奥に生涯学習課があるんです。その手前がこういうオープンスペースみたいになってまして、そこにNPO団体とかが、相談コーナーがあるのと、あと、自分の展示なんかをしていたりしていました。あと、チラシなんかがワット置いてあって、そこでいろいろ相談に乗ったり、NPOの人たちが来て展示をしたりというのができるような感じの施設になっていました。

そういうことで、もともとたづくりはそういうのに使うつもりで建てたのかどうか、よくわからないんですけれども、そういう活用法を調布ではしていました。

あと、これはちょっと夢物語になるかもしれないんですけれども、以前、愛知県のほうに行ったんですけれども、そのほうでは、岐阜県か、各務

ヶ原、隣の犬山市だったっけ、愛知県の、どこかと共同で市民大学みたいなのをやっています、ポイントをためていくと。単位制みたいな講座がいっぱいあって、スタンプをためていくというような、そういうモチベーションづくりも含めて、実際にそういうような生涯学習の取り組みをしている。

小金井市、一朝一夕にそこまでいくということはなかなか難しいかもしれないですけども、ひとつそういうのもおもしろいなと思って見たというのも、ちょっと情報提供的に申し上げておきます。

原嶋議長                   ありがとうございます。

古家委員                   私も、いろいろなケースがあると思うんですけども、一番最初のあたりで部長のほうから確認されたと思うんですけども、小金井は予算がない、箱物をつくるのは無理ということは僕は前提だと思うんです。だから、この生涯学習支援センター機能の部分で、そこにたくさんの人が集まって何かをやるとか、会議室があるとかというようなことは、むしろイメージしないほうがいいんじゃないかという気がしているんです。

そういう意味では、課長がおっしゃったのは、新橋のほうは非常に参考になると思うんですけども、極端に言うと、例えば資料を置くスペースだって、ほんとうに起き始めたらこの会議室でも足りないわけですね。だけど、もっと極端に言うならば、今の生涯学習課のはじっこのあたりとか、もしくは7階の窓側の椅子のあたりにでもいいから、生涯学習課の誰かに声をかけたら相談に乗ってくれて、そこに声だけかければ使えるようなパソコンが2台ぐらい置いてあって、そのパソコンを見れば、例えばいろいろな資料が、全部、見ることができるとか、それだけで、今の時代というのはやはりそういうネット社会なので、スペースは小さくてもいい、誰か相談に乗ってくれる人が1人でもいればいい、あと、教えてもらいながら自分で探せばいろいろなことが見られるというふうな、それぐらい限定した、いわゆるスペース的にですよ、そういうものも1つの案と考えたほうがいいかなという気がしています。

西田生涯学習部長    ありがとうございます。

ちなみに墨田区なんですけれども、話が出ていましたが、あそこは大体、人口規模が小金井の2倍強です。予算額が小金井市の4倍から5倍です。小金井市が400億ぐらいだね。たしか墨田区で1,500億とか、そんな

ぐらいだったような気がします。

ですから、今、先生がおっしゃっていただいたのと全く同じだけれども、そういうところと土俵を同じにしてやろうというのはちょっとなかなか難しいというか、無理があることを考えても仕方がないから、それは確かに1つあるかなと思います。

ですから、夢のある話をしていても、すごく我々も楽しいんですけども、それをやれと言われたら苦しいところもあって、そういう意味で、実は私が昔というか、何回か前に提案した狭山市というのは、実は相談に乗っていただく方もNPOの方がやっていたらいい。NPOがNPOの相談に乗っているというような、そんなイメージですかね。だから、市民が市民の相談に乗っている。ですから、役所の職員が相談に乗っているのではなくて、NPOの方々が独自に生涯学習のネットワークを築いていて、それで相談に乗っているというのがちょっとおもしろいかなと思って御紹介申し上げたというのがあります。

原嶋議長

こればかりの討議じゃないんですけども、先ほどの部長さんの言葉をいただくと、我々のほうとしては、学習部に少しは気づいてもらいたい、後押しを我々もしていきたいというような方向で、かなり古家先生なんか、やっぱりパッとやってくれた部分というのも、僕も大体そんなようなイメージで、今。

小委員会でもちょっと話された部分もありますけれども、小委員会でも具体的な方向性ですね、今、城さんがおっしゃったように、もうそろそろお話は、じゃなくて、一步出ようよと。見る前に飛べというわけじゃないですけども、そんな方向でもいいのかな。その辺を少し小委員会でまとめさせていただければなと思っています。

2月につきましては終わりで、多分、今年度は最後になりますね。我々、3月に召集されていますけれども、また新たに4月からのことになっております。

もう一回、言いますと、今までの話を受けまして、これから方向性、あときっと三、四回しかないんですね。小堀さん、どうなんですか。4月がありますの？

小堀生涯学習係長 そうですね、あと4回です。

来年度に入って本会議が4回です。

原嶋議長

そうですか。

そこで今日の話を受けまして方向性を少し提案させていただければというようなことですが、何となくもう話に入る前に不安で、どんなふうに進めたらいいのかというの、ちょっと僕もわからなかったんですけども、申しわけありません。司会者として。

それでは、3月の1日にあるということで、小委員会の方、ぜひご出席をお願いします。

それでは、このレジュメに従いまして、次に参りたいというふうに思っています。評価です。ご説明いただけますか。

小堀生涯学習係長 資料として、A4、3枚お配りさせていただいております。資料1、資料2のほうが小金井市の基本計画前期での評価シートになります。このような形で1年ずつ評価しておりまして、資料3が小金井市ののびゆくこどもプラン小金井の評価シート、全て生涯学習の事業を載せさせていただいております。

今回、第三次生涯学習計画に当たっては、50ページにあるんですけども、計画の評価ということで、PDCA、計画の目標設定、実施、各施策の実施、点検評価、最後に改善策などの検討ということで、前回の会議に出させていただいたんですけども、二次までの評価については、のびゆくこどもプランと同じような形の評価の方法になっていたかと思うんですけども、今度、三次の計画については、評価の方法をどのような形でさせていただいたらいいかということで御相談したいと思ひまして、こちらの他の計画のシートを提出させていただきました。

以上です。

石原生涯学習課長 では、紙ベースだけだとちょっとイメージが湧かないのかもしれないんですけども、のびゆくこどもプラン小金井については、先ほど小堀のほうで言ったとおりに、各課に照会をかけて、基本的にはそれで戻ってきた回答をそのまま掲載しているような感じです。ただ、のびゆくこどもプランについては、ちょっとその後、追跡しているところが、これを審議会のほうに出して、審議会に3回ぐらいかけて、全事業について疑問点などを委員から聞いて、それについて担当課に出席を求めて回答をしてもらったり、出席できない課については事務局のほうで聞き取りをして次の会議で報告するとか、そういったことまでやっております。

それから、こちらの施策評価シートと事務事業評価シートというのは、

シート名は違うんですけども、1つの評価手法の中で使われている2枚のシートでございまして、こちらについては、企画政策課のほうが一件一件、事業について各課を呼び出して、事業の評価の説明とか、そういったところも企画政策課の職員の聞き取り、ヒアリングとかをもとにつくり込んでいっているようなものです。その程度です。

原嶋議長 3枚ですか、それに当たってのご説明がありましたけれども、このことについてご質問がありますか。

古家委員 これ、のびゆくこどもプランの評価で、放課後子ども教室のこのみなんですけれども、これは生涯学習推進計画の評価の中のごく一部と考えていいんですよね。どうなんでしょう。

石原生涯学習課長 御参考までにこのシートを出させていただいたんですけども、シート全体を全てに公表していなくて、委員向けにはこういった形でシートを使っているんですけども、ホームページなどで公表するときには、かなりはしょった形で公表がされるもので、皆さん、イメージをつかんでいただくために、全部、出してもしようがない、うちの課の事業について出していただきました。

これ、今、古家委員からご指摘いただいたように、先ほどの事務事業の重複というところにもかかるんですけども、生涯学習推進計画でも放課後子どもプランについて評価するように、のびゆくこどもプランの中でも評価しています。あと、こちらの施策評価シートにかかわるような基本構想の中でも重点プロジェクトの中に位置づけがされているので、1つの事業について何重にも進行管理というか、あと、教育委員会の点検評価でも評価されていますし、4つぐらい評価を受けているような事業も主要な事業ではあります。

以上です。

古家委員 実は何でその話をしたかという、放課後子どもプランというのが、生涯学習課の中に位置づけられるというふう考えたときに、先ほどの話し合いの中のインターネットの割り振り図というか、構造図みたいなものをつくるのにすごく参考になるかなと思うし、実際に評価がどうされているのかなという部分を見るのにもいいと思うので、例えばのびゆくこどもプラン小金井みたいなもので、この第三次推進計画の中にあるような主だっ

た項目に関係するようなものを、これを私たちが見られるような形で資料を出していただくということは可能ですか。

石原生涯学習課長 三次のものは、今年28年度が計画初年度なので、28年度終了後、29年度に入ったところで、28年度はこのような評価でしたということの評価するようになります。

今回、議題に乗せたのは、その評価について、どういう方向性で評価をしていくべきかというところに、皆様方でそういうのびゆくのように、各ほかの生涯学習課以外の事業についても評価対象にして、主管課の聞き取りなども行って評価をしていくか、それともペーパーベースなどでやっていくかというようなところの御意見もいただきたい。

古家委員 ということは、第三次推進計画の中にあるものを、簡単に言うと、これは1つの事業で1枚なんですけれども、これがここにある具体的な内容が項目みたいになっていて、私たちがというか、評価をするための評価計画みたいなもの考えるというイメージですか。

石原生涯学習課長 そうですね、評価手法。のびゆくは、第二次の計画についてもおよそこういった体裁ですごい量の各課の評価シートをお出ししているんで、そうすると、ちょっと総花的というか、突っ込んだ御評価というのがいただけないところもあるかなというところで、前回の会議でも重点プロジェクト中心に評価をしていくことがよりPDC Aを回すためにはいいんではないかというような御意見もいただいたところでございますので。

古家委員 このPDC Aサイクルで評価していくという部分は、やはり抽象論的に考えるとなかなか難しいと思うんです。だから、二次計画と三次計画の中身は結構ダブっている部分があると思うんで、できれば二次計画の中にあつたもので、生涯学習推進に関連するような部分のこういうものを、あとの2つはいいかなと思うんですけれども、私、これが実際の評価が一番書かれているものだと思うので、二次計画の中に入っていたようなもので参考になるようなものをペーパーベースでいただけるとありがたいと思うんです。

石原生涯学習課長 ちょっと前回の会議のときにお配りした資料で、二次の全ての事業について、こののびゆくみたいな体裁のものは、各課自身の評価が終わった

ものとして御提出していただいたんで。

古家委員           すみません、私が見ていなくて申しわけないです。

石原生涯学習課長   今後、全て出すものは参考程度に扱って、重点プロジェクトに位置づけたものだけをちょっと取り上げて評価していただくとか、そういったことをしていただけるといいのではないかな。

西田生涯学習部長   第二次のときは全部の事業についてやっけていまして、第三次のとき、ちょっとその反省があったかな、全部をやるんじゃないかとというあれがあるので、その中で、逆にそのときと同じようにするのか、重点プロジェクトというのをもう絞り込んでやっけていくのか。そのかわり、もうちょっと詳しくやるという話にもなるのかもしれないんですけども、その辺を、多分、今回、決めていただければなど。

ただ、第二次のときの形式ですと、18ページにわたって細かく、200事業、1つのページに10幾つ載っていると思うので200幾つになるのかもしれないんですけども、その事業を一々全部、評価していたんですけども、今回もそういう形でやるのか、先ほど課長が言ったように重点プロジェクトに絞ってやるのか、また、絞った場合に細かくやるのか、もうちょっとわかりやすく簡潔にやっけていくのかという、そういうのを決めていただければなどというお話なんで。

原嶋議長           この時間で決めたほうがいいんですか。

石原生涯学習課長   あとは、二次の、三次の29年度に入って。

原嶋議長           そうですね、まだ1年間ありますね。

石原生涯学習課長   その重点プロジェクト中心にこういう評価を、まとまった段階で皆さんにお示しして、その中で、議論するのにこれじゃ足りないなとか、そういった御意見をいただくという手もあるかなと思います。

佐野委員           先ほど私がお話ししたまとめたものというのは、お話がありましたように200幾つを抽出して1つのデータにまとめたんです。これ、全部、予算額とかそういうのが入っていますから。その資料を、今、持ってきていないので。はっきり言いまして、大変な作業でした。

原嶋議長 評価が妥当なのかどうか、予算との関係、全て予算決算の関係ですね。そこまで持ってこれるものがある、どうぞ。

原田委員 この生涯学習推進計画三次のものをつくるときに、重点プロジェクトについては、項目立てや中身についてかなり議論したと思うんです。そういう意味では、部長、課長がおっしゃったように、このプロジェクトの項目を中心にきちんと評価するという方向は、私、賛成だと思います。

西田生涯学習部長 参考までに何ですけれども、多分、ここに出ている評価シートは一枚一枚になっているもの、評価関係資料1、2、3と、今回、3枚、配らせていただきました、つくり方がそれぞれ違っているんです。一番最後に出ているのが、一応、これがわりと第二次のときの評価がこんな感じ、ここまで出さないんですけれども、第二次の評価のイメージがこっちだったかなという感じなんです。

こちらの関係資料1と2というのはつくりが違いますので、例えば施策評価シートで評価関係資料1のほうに書いてあるほうは、一次評価とか最終評価と2段階評価でつくっているような形になっています。ですから、各課評価の後に、例えばまた別にヒアリングをして、別のところが第三者的な立場で評価を出しているという形なのかな。そういうつくり方もあるし、評価関係資料2にあるように、これ、両方とも年度ごとなんですけれども、こういうふうにプラン、ドゥ、チェックという形で作っていくという評価のやり方もあるしという中で御参考にこれをお出ししたんだと思うんですが、何を対象にどういう形でやっていけばいいかというのを決めていただければと、そういう意味です。

原嶋議長 ほかにありますか。ちょっと時間の配分を考えて。

古家委員 すみません、意見なんですけれども、この資料1と2は1つの事業について1枚ずつですよ。

西田生涯学習部長 これはそうですね。

古家委員 ですね。資料3だと1枚に幾つか載つけられますよね。しかも26年度と27年度の進捗状況なので、例えばこれが27と28というようなこと

はある。

西田生涯学習部長 ですから、これ、多分、1年ごとで前はやっていました。去年のがわからない状態で第二次のときはやっていました。

やり方はいろいろあるんだと思うんです。1枚に載せることもできるし。ただ、1枚で200ページというのは、佐野さんがおっしゃったようにちょっと難しいと思うので、もし200個やるんだったら、多分、一番最後にあるのびゆくこどもプランのような形式でやらざるを得ないのかなというふうに。見るほうも大変ですから。

古家委員 私も重点でいいと思っているんですけども、仮に200じゃなくて20か30ぐらいでも、これが20枚、30枚あるよりも、できるだけページ数が少なくしてシンプルでのほうがいいような気がするんです。個人的な意見。

原嶋議長 200何ページかになったというのは、やはり評価者の今度は資質というか、それが問われてしまいますね。やはり重点化したというようなことでいいのかもしれませんが。

西田生涯学習部長 そういうこともあって重点化したのかなというふうに拝察はするんですね。

原嶋議長 今、僕も二次のを持っていますが、これをやはり少し焦点化したものがあることになってくるわけですから、背景としてそういう裏づけもあるわけですから、皆さん、おっしゃっている中での重点化されたもの、やはりそういったものを評価としてということではいかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」という声あり)

原嶋議長 では、課長さん、今のでよろしいですか。

石原生涯学習課長 はい。

原嶋議長 お願いいたします。

よろしいですか、11時、すみません。では、その次に行きましょう。  
関東甲信越、静岡まで入りますね、静岡大会の分科会の事例発表について、  
よろしいですか。お願いできますか。

小堀生涯学習係長 今回の第48回の関東甲信越静岡社会教育研究大会のことなんですけれども、こちらにつきましては、来年度、29年度の話なんですけれども、29年度、静岡大会が予定されておりまして、11月16日から17日、沼津でということになっております。こちらについて議題に入れさせていただきましたのは、東京都から1つ事例発表をしてくださいということが投げかけられているということで、各区市町村に何か事例発表をするものがありますかということで調査が来ております。

ですので、小金井市から何か発表しなければいけないとか、そういうことではないんですけれども、もし小金井市の中でこういうことをやっているからぜひ発表したいとかということがあれば、この場合は手を挙げるということになります。ただ、来年度29年度は9月に改選がありまして、委員の方が一部変わる可能性もありますし、特化して何かやっていたということがあってぜひ発表したいということがなければ、今回は特に手を挙げないという形もあるかと思っておりますので、御議論いただければと思います。

原嶋議長 受けると簡単に言えないですね。我々、任期が切れて、受けたはいいけれども頼むよじゃ、失礼になるのじゃないかなと私は思っていますけれども。いや、来期も考えているから発表したいということであれば、いいですか。

残念ながら他の市区町村にお譲りすると。

次、お願いします。

小堀生涯学習係長 2番目の放課後子どもプラン運営委員会委員の推薦についてなんですけれども、こちらの委員は1年ごとに改選になっておりまして、推薦依頼が届いております。今年度、小山田委員にやっていただきましたが、また29年度、どなたかを推薦するかということをご議論いただきたいと思います。1年間、来年の3月31日までになります。

原嶋議長 推薦するわけですね。

小堀生涯学習係長 はい。

原嶋議長 立候補される方、いかがですか。小山田さんが今までおやりになっていたわけですね。

小山田委員 そうですね。後でまたちょっと報告のところでもお話をしようかと思っていたんですが、今年度の運営委員会も、昨日、終わりました、いろいろお話があって。なので、来年度、任期が、多分、9月で切れるので、その後、どうなるかが私もわからないんですけども、その後、どうなるかは置いておいたとしても、9月まで継続でということであれば、そのままやらせていただいてもということなのですが。ちょっと9月以降、私も、全体的なことがどうなるかはちょっとわからないですけども、続けてやらせていただきますけれども、いかがですか。

原嶋議長 では、そういう条件つきということで、とりあえずお願いします小山田委員さんを推薦するというので、社会教育委員会でもご案内する形になりました。よろしくをお願いします。

その他は。お願いします。

佐野委員 よろしいですか。前回の原田委員から千葉大会のときの話をしたときに、まごの店について御質問があって、私、資料がなかったので答えられなかったんですけども、そのことでよろしいですか。

シンポジウムの際に、岸川さんという方が話をされた中にまごの店というお話が出ました。これ、三重県のお話です。相可（ソウカ）高校というんですかね、相可（アイカ）高校というのかな、そこに食物調理科というのがあるそうなんです。その高校生が、地元の食材を使って先生の指導のもとにそのお店を開いている、そういうお店だそうです。それが非常に好評だということです。植物調理科の調理クラブの高校生が、先生の指導のもとに地元の食材を使ってお店を開いている。それが非常に好評で、テレビで随分取り上げられたというふうにもお話をされていました。

そういうことでよろしいでしょうか。

原田委員 まごの店という名前からすると、高齢者の方が食べに来るということですか。

佐野委員 そこまではちょっとあれなんですけれども、この間、私が話したのと若

干ニュアンスが違ふかもしれませんが、こちらのほうで、今、私が話したほうが正確だと思います。

原嶋議長 どうもありがとうございました、補足。

③その他、ほかにありますか。

小堀生涯学習係長 第2回理事会のほうに出席させていただいたので、ご報告させていただきます。

平成29年度の定期総会につきましては、八王子市のいちょうホールで4月22日午後1時半から開催予定ということで、詳細、また出欠確認は連絡が来ましたらメール等で御連絡させていただきます。また、平成29年度の役員は、一応、輪番制で決まっております、会長は立川市、副会長は武蔵野市、三鷹市、会計は立川市、会計監査は国立市、福生市ということになっております。

先ほど言いましたけれども、第48回の関東甲信越静社会教育研究大会は、来年度、静岡大会になっておりまして、29年11月16日から17日に沼津市で行われるということです。

武蔵野市さんのほうから、社会教育委員日より、こもれびというものを新しくつくりましたということで、部数が何部かしかいていないので、今、回しますので、ちょっと見ていただければと思います。

以上です。

原嶋議長 ただいまのは報告です。

それでは、結構、この会議はサッと進んでおしまいになっちゃうんですね。追ってまた市町村の社会教育委員の会議そのものは事務局から連絡があると思います。よろしく御協力ください。

その次、(2) その他であります、報告事項、小山田委員さん。

小山田委員 先ほども申しかけましたが、放課後子どもプランの運営委員会が一昨日、15日にございましたので、簡単に報告をさせていただきます。

こちらのほうは、今年度、最後ということで、全体的な状況としては、昨年度よりも全体的に開催回数が増えており、予算の執行率も増えており、参加する子供たちも増えているということでございました。そのために、実際、ボランティアをやってくださる人の数が、今、足りていないということで、そこの打開策を考えていきたいということで、学生さんや地域の

方たちにボランティアとして、またそういった募集なり、そのあたりを考  
えていきたいというようなお話がございました。

課題としては、平成30年度に学童保育所と放課後子ども教室の一体化  
ということがありまして、それをプランとして出していかななくては行けな  
いということがあるということで、それに向けてどういうふうな形でとい  
うことが、今、最大の課題になっているのかなというところになります。

それに関連もするんですけれども、今、子ども・子育てプランでパブリ  
ックコメントで事業計画の見直しで、今、生涯学習課とかかわる案件も入  
っているということで、それがこの放課後子ども総合プラン事業という、  
今言った学童と放課後の一体化ということが入っているということなので、  
その会議のほうでも、生涯学習課に関連することなので、皆さんも見てい  
ただいて、御意見があればというようなお話がありました。来年度も継続  
というか、ということで、皆さん、やっていかれるということでございま  
した。

以上です。

原嶋議長 今の、御質問はありますか。

古家委員 すみません、ちょっといいですか。私はあまり放課後子どもプランのこ  
とは自分の学校のことしかわからないのであれなんですけれども、今の平  
成30年度から学童と一体化の方向になっているというのは、市の方針？

小山田委員 市というか、国の方針で、そのあたりはちょっと。

古家委員 学童は、今、1年生から3年生までじゃないですか。

西田生涯学習部長 一体型も、市自体がどう定義するかでいろいろなタイプがあると思  
うんですけれども、小金井の場合は学童も、それぞれ新しく学童保育所の建  
物ができたようなところは施設が充実していますし、放課後子ども教室に  
ついては、ずっと市民の力でやってきたという歴史があるので、それを一  
緒に一まとめの制度にしようというところまでは計画しておりません。

一番最低ベースとして、学校の敷地内に学童保育所があり、学童保育所  
に断わった上で、学童保育所に入所が認められている児童も放課後子ども  
教室に参加することができるという条件を持っているところは一体型、本  
町小学校のように、別の場所に離れた距離で移動しなければいけないとい

うところを連携型、そういった一体型、連携型ということで、小金井市は現時点でやっていきたいと思っております。

古家委員 学童に入っている子供も放課後子ども教室をやっているところには、そこに参加できるという方向をこの一体型という言い方でやるということですね。全く一緒になるということではないということですね。

西田生涯学習部長 ではないです。

古家委員 わかりました。すみません。

原嶋議長 よろしいですか。  
報告のほう、ありがとうございました。  
その他、報告、ありますか。では、公民館長さんですか、図書館。

前島公民館長 私からいいですか。公民館長です。  
来年度、29年4月から緑センターの宿泊利用に伴う布団代と電気式の陶芸釜の電力量の料金、こちら、今、貫井北と貫井南に陶芸館がございますが、それを実費負担という形で御利用の皆様からいただくこととなりましたので、御報告いたします。

今まで、そういった方向性で考えてきまして、ご利用の段階で御説明してご意見を伺ってきたんですが、実費負担そのものについての反対の意見はございませんでしたので、平成29年4月から、御理解いただいた上、利用料金として実費を負担していただくという形となりました。

ただ、主催事業で、障害のある方の青年学級みんなの会というのがございますが、そちらのほうで、8月、夏にサマーキャンプを行っておりまして、そちらのほうの実費をどうするかというのは、ほぼ多くの方はご理解いただいているんですが、一部、ご意見がございましたので、引き続き、開始までに決める形で、丁寧に保護者の方、あるいは講師の方、踏まえまして、お話の機会を設けながら決めていきたいという形でございます。

雑駁ですが、以上でございます。

原嶋議長 図書館長さん。

菊地図書館長 図書館からは今の動きについてご報告させていただきたいと思います。

市の最上位計画であります後期基本計画の中に、図書館の市の取り組みとして、中央図書館の整備も含めた図書館のあり方を検討していくということが載っております。このたび、10月24日に、石田委員もご出席いただいております図書館協議会のほうに諮問させていただきまして、協議が始まったところでございます。

図書館では、小金井市立図書館運営方針を持ってございまして、その中に図書館サービスの指針ということでやられているんですけども、施設に関する、こういった機能が図書館に必要なのかですとか、施設の規模ですとか、配置ですとか、そういったものについては運営方針の中に触れてこなかった経過もございますので、ここで手をつけたところでございます。

図書館協議会にも諮問させていただきまして、中心にご議論いただきまして、平成29年度末に答申をいただくことを予定しております。

以上になります。

原嶋議長

ありがとうございました。

そのほか、ありますか。

それでは、今後の予定というのはそれぞれメモしていただければと思います。我々がまた全員でお会いするのは4月21日です。3月1日には小委員会のみ委員と書いてあります、ご出席の方はお願いします。

よろしいですか、課長さん。

それでは、随分遅くなりました。すみませんでした。ありがとうございました。本日は終わります。